

0

スマート農業技術と営農支援システムで高い収量と高品質の大豆生産を実現

株式会社 おしの農場

山形県天童市

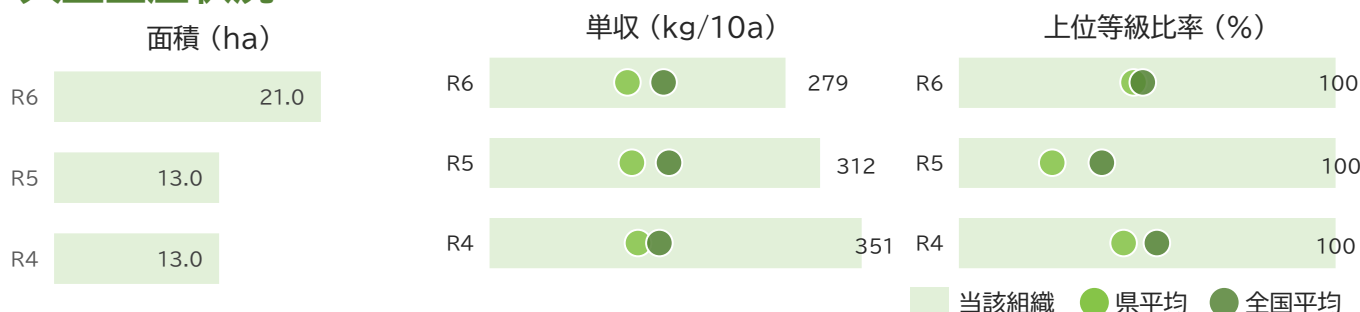


設立年月 H30年3月

基幹作物 水稲99ha、大豆(里のほほえみ)21ha (R6年時点)

特 徴 離農者からの農地引受等で、経営面積が拡大している状況であり、労力分散を図るためにも、5年前から大豆の作付を開始した。スマート農業技術の導入を進めており、営農支援システムを活用し、圃場ごとの作業記録・進捗状況を「見える化」し、データを共有している。これらの取組みは、スマート農業技術活用促進法に基づく生産方式革新実施計画の全国第1号の認定を受けている。

大豆生産状況



栽培上の特色

- 地力低下による収量及び品質の低下、連作障害を回避するため、鶏ふん等の有機物を投入している。また、苦土石灰投入により土壌の酸度矯正を行ない、生育確保に努めている。
- ほ場条件を均一にするため、透・排水対策を徹底し、出芽率向上や初期成育確保に努めている。
- 播種作業は、自動操舵システムのトラクターで行い、熟練オペレーター並みの精度の高いものとなっている。その後の中耕・培土を大豆の生育に合わせて2回実施し、雑草の発生を抑制している。
- ドローンで追肥を行い、莢数、一莢内粒数、百粒重を高めている。



経営上の特色

- スマート農業技術の導入を進めている。営農支援システム(KSAS)を活用し、圃場ごとの作業記録・進捗状況を「見える化」し、従業員間でデータを共有している。収量や栽培履歴もKSASで管理しているので、過去のデータを遡り、次年度の計画作成に役立てている。
- 地域の担い手として農地を集積・集約化している。「あなたの田んぼ、守ります」を経営理念とし、地区の離農者の農地が耕作放棄地とならないよう心掛けている。
- 適期にドローンを用いて農薬・追肥を散布し、過剰な使用を防いでいる。

販売・消費拡大への取組

- 今後も加工業者と情報共有を行い、要望に応えるものを生産していく。
- 将来的には、自社ブランドとして大豆販売を目指している。

